

結い YUI

「結い」とは、田植などの時の助け合いのことを言います。土くさく温かい言葉です。

発行者 山梨県人権擁護委員連合会
事務局 〒400-8520
甲府市北口一丁目一九
甲府地方法務局内
電話 (055)252-7239

応募作品は三千400

県下中学生人権作文コンテスト

10月11日審査会 表彰式12月10日

全国中学生人権作文コンテスト山梨大会の応募者は、昨年並みの三三九八人となりました。各グループや協議会の協力で審査はスムーズに運び、今月十一日の最終審査会を経て優秀作品が決まり、全国大会に推薦されます。表彰式は十二月十日、甲府・山日YBSホールで行われます。

同コンクールは一年がかりのロングラン事業。九月七日、応募を締め切り、グループや協議会審査を経て中央審査を迎えました。

県内九十六の中学校すべてが参加しました。応募者と学校関係者の理解と協力、各学校担当委員の労を惜しまない取り組みの成果にほかなりません。全国でも例を見ない成果を上げました。

第6回富士山人権啓発



第6回富士山啓発は7月31日、54人が参加して実施されました。

午前8時、富士ビジターセンターに集合した一行はラッピングバスなど2台に分乗し霧雨の五合目に到着。開会式の後、揃いの黄色いベスト姿で「人権まもるくん・あゆみちゃん」のストラップとボールチェーンなどを登山者や観光客に配りました。登山者などの国際色は豊か。富士山人気を象徴していました。

「人権の花」運動 感謝状贈呈を終了

人権の花運動は、今年も五月から県内十八校で行われ、花の種を付けた風船が大空いっぱいに放されました。

第二回理事会を開催

第2回理事会は九月十三日、法務局四階会議室で開かれました。

網倉義久会長は、富士山人権啓発など、上期事業に対し関係者の労をねぎらい、下期事業に対する期待を述べました。



写真は山梨市立岩手小学校で

引き続きいて、議事に入り、山田勝彦事務局長が実施済みの事業や進行中の事業について報告しました。

審議事項では、①事務局設置規則の改正②県連事業の今後のあり方③県連主催

研修会の実施方法④パソコン意識調査の実施⑤人権週間における人権パレードの実施⑥来年度定時総会開催日と会場の予約について提案され、原案通り了承されました。

この人権の花運動に協力いただいた各校には、人権擁護課長や支局長に担当委員が同行し、甲府地方法務局長と県連会長名の感謝状と記念品を贈りました。

人権啓発パレードは十二月四日、甲府・平和通りで行います。

創刊30号へ委員の声

「結い」創刊のころ

それぞれの市や町での人権擁護委員の活動をお互い知り、県連が温かく生き生きとした組織でありたい。そんな思いから「結い」の発行がはじまりました。

自主運営が始まって間もない県連事務局の中で「結い」編集は手探り状態。雅拙なものでしたが、仕事は楽しいものでした。天野五十鈴委員と取材に出かけ、南部の火祭りでその地の委員の方々に温かく迎えていただいたことも懐かしい思い出です。三十号の発行まで回を重ねて来られた担当の方々のご苦勞を思い感慨を覚えると共に一層の発展を祈らずにはられません。

（小宮山光江）

編集委員会には、次のようなEメールが相次いで寄せられました

☆「結い」二十九号拝読しました。ご苦勞様でした。大変よくまとまっており感心しました。（網倉義久会長）

☆内容の充実は勿論ですがレイアウトもすっきりしており、読み易いと思いました。形にすれば当然のように目にはますが仕上げる過程が大変であったことと推察します。お疲れ様でした。（乙黒幸江副会長）

☆新生第一号の発刊、誠にめでとうございます。佐々木編集長がわざわざ届けて下さって、恐縮しているところです。旧編集委員の方達も喜ぶことと思います。今回立ち上がりから日にも無いのに当初の予定どおりの発行、皆

より、霊峰富士の五合目スカイパレス前で催されました。開会式では網倉会長と丸山顧問が挨拶し、活動が実施されました。この啓発活動は毎年連続二十万人を超える国内外からの富士登山観光客に向けて人権擁護への理解や意識の高揚を図るのが狙いです。

富士山啓発への思い

都留人権擁護委員協議会

会長 荒井 繁



今年の富士山人権啓発活動は小雨が降る中で五十四名の参加者に

今年で六回目。終了時にはいつも富士小御岳神社を参拝し、今年も富士山から東日本大震災の復旧・復興を祈願しました。この啓発活動で人権を守ることや人への思いやりを大切にしている気持を持つ必要性が十分に伝わったものと感じています。

山梨県立文学館で「深沢七郎の文学 秋の企画展」と関連の催しが九月十日から始まりました。昭和三十一年第一回中央公論新人賞を受賞した「楢山節考」を時の批評家は「これ一作にて足れり、人生永遠の書」と評しました。

同書の結びは、奥深い山中の岩陰で、雪が降り白狐のようになつて念仏を称えているおりの「帰れ帰れと振る手に押されて戻った倅辰平が思うなんぼ寒い」として綿入れを山に行くにや着せられぬ」です。四十数年前、深沢七郎と深い親交のあった人から「この下りをどう思う。分かるか」と問われたことがありました。今では数少ない私の愛読書になっています。「楢山節考」は倅辰平から母おりんへの終わりのない長い長い手紙にも思えます。（身延町）

委員から一言

笠井義彦

久美子氏）
☆人事異動後、短期間でよかったですと思います。大変と思います。頑張ってください。（匿名）

掲示板

▽十月二十日を別途に「パソコン意識調査」を実施中です。協力をお願いします。

▽職務執行結果報告書の提出は翌月五日までに必ずお願いします。最近の提出率は、六十七%です。

新任・退任の委員

十月七日付で次の委員の方々が新任、また、退任されました。（敬称は略）

▽新任

- 山岸 洸（中央市）
- 保坂 三郎（韮崎市）
- 田村 哲子（南部町）

▽退任

- 高野美代子（中央市）
- 水上 邦子（韮崎市）
- 芦川 和男（南部町）

編集後記

機関誌「結い」は平成十六年に創刊され、今回で三十号となりました。更により良いものにしていくため、皆様のご意見やご指導をよろしく願います。